ルポ「ウタラ川のオヒルギ」

群を抜く太さ黒々と

新たな枝伸ばし世代交代も

【西表】ずぶずぶと飲み込まれそうになる長靴を一歩一歩引きずり出しながらオヒルギ群落を抜けると、一際大きなオヒルギの老木が黒々と立っていた。2000年に林野庁の「森の巨人たち100選」に選ばれた。梅雨明けを思わせる晴天が広がった9日、この巨木を見に行った。

◇　◇

宇多良炭坑を過ぎたあと、オヒルギとアダンの群落を2度ずつ通ることを考えれば、長そで、長ズボン、軍手、長靴、ヘルメットという装備にも納得がいく。しかし、午前10時に27・2度まで上がった晴天の森を歩くには、いかにも暑い。

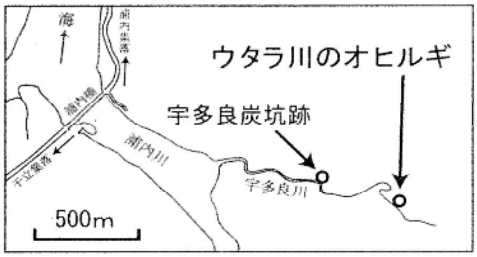
所々に垂らしてある目印のテープに沿って進みながら、の見学は遠慮してほしい」と呼び掛けるのは、うなずける。アダンのとげが、ズボンの上からちくちくした。

ルギ群落のなかで、群を抜く太さ。うろにはマンネンタケのようなキノコが顔をのぞかせ、朽ち始めているかのような兆しが見える。

一方、腐って朽ちている空洞を5年ほど前に殺菌剤で処置したあと、新しい枝が伸び始める変化も起きており、「ウタラ川のオヒルギ」では今も世代交代が進んでいた。

（松田良孝記者）

国内最大のオヒルギとされる「ウタラ川のオヒルギ」＝9日午前11時ごろ、浦内川支流の宇多良川沿いで



先を行く杉野恵宣・西表森林環境保全ふれあいセンター所長が「1年後に来たら、道が分からなくなりますよ」と振り返った。

植物の生長はそれほど早い。同センターが「林内で迷う危険がある。無断で

オヒルギはヤエヤマヒルギとともに、西表島のマングローブのほとんどを占める。「ウタラ川のオヒルギ」は幹周り345㌢、樹高8㍍で、国内最大のオヒルギとされる。

細い柱が林立していようにに見えるオヒ